

私とハムスター

五年 仁藤陽菜子

私の家には、ハムスターがいます。私はそのハムスターが大好きです。なぜ大好きかという体が小さくてかわいいからです。なので、自分の中では家族のいちいんだと思っています。

私が育てていてうれしかったり楽しかったりすることは、三つあります。まず一つ目は、自分になれてくれたことです。家にきてしばらくは、さわろうとしたりだっこしようとするところわがってにげたいってしまったりけど今は、さわろうとしてもにげないしだっこしてもあばれなくなりました。

二つ目は、手でえさをあげたら食べてくれるということです。それは、あげていたら手でもってかわいく食べてくれたりむ中で食べてくれたりすることがうれしいし、あげることが楽しいからです。しかもまたあげたくなります。

三つ目は、私や家族と遊んでくれることです。トイレトペーパーのしんの中を通ったり私がつくったつみ木のめいろで遊んでいるすがたがとてもかわいらしく好きだからです。

しかし、育てていたいへんなことやかなしいこともあります。たいへんなことは、ゲージのそうじです。ハムスターは自分でそうじができません。なので、毎週私達がそうじをします。また、すごくあつい日やすごくさむい日は、ゲージの下にヒーターをおいてあたためてあげたり、ペットボトルに水を入れてこおらせたものを近くにおいてすずしくしてハムスターがかいてきにすごせるようにしています。今は、一ぴきですが飼いはじめたときは、二ひきでした。なぜ一ぴきになってしまったかという点と死んでしまったからです。飼いはじめたときは、とつてもうれしくて毎日お世わをしていたけれど、だんだんとお世わをしなくなってしまうからです。死んでしまったとわかったときは、すごくかなくなくてたくさんきました。私はこのけいけんから、お世わがめんどくさくなってしまっても、ちゃんと一つの命があるということをわすれずに、お世わをしようと思いました。